

PHD LETTER

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

2006.9

- PHD協会 25周年
- PHD LETTER 100号までの歩み

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和 (Peace) と健康 (Health) を担う人づくり (Human Development) をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

発行：財団法人PHD協会 理事長 今井 鎮雄
 編集人：藤野 達也
 住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3 元町アーバンライフ202
 TEL 078-351-4892 FAX 078-351-4867
 E-mail: phd@mb1.kisweb.ne.jp
 URL: http://www.kisweb.ne.jp/phd
 定価：100円
 郵便振替口座：財団法人ピー・エイチ・ディー協会 01110-6-29688

マザー・テレサと岩村先生が写った写真を使った8号

暑い夏が終わって、秋になりました。
 PHD LETTER No. 8 発行 1983年9月10日
 編集人 今井 鎮雄
 〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3
 TEL 078-351-4892 FAX 078-351-4867
 E-mail: phd@mb1.kisweb.ne.jp

PHD協会の活動は、1962年から約35年間、ネパール、東南アジアを中心とした国際社会福祉活動に従事された岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和 (Peace) と健康 (Health) を担う人づくり (Human Development) をすすめる中で、1981年からはじまりました。

マザー・テレサと岩村先生が写った写真を使った8号

PHD LETTER 77 2000-12
 PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

この村に学校ができる。知らせてきて村人が集まってきた。数回するのには第一期PHD研修生のバラト・ビスターン。「日本からもお手伝いがありますよ」との思いで村人から感謝が寄せられた。

一期生バラトさん (ネパール) と村の人たち

PHD LETTER 88 2003.9
 PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

村に帰って農業に取り組むスウェインさん (ビルマ)

スウェインさんは、2000年に日本へ来て、稲作にこれに関わることを始めてきた。1年目の家でてうまくはいかないけれど、村人も注目している。

とうとう100号、まだまだ100号

PHD協会 25年の歩み

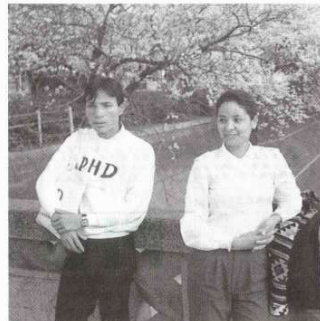
想い出あれこれ。25年の月日の中に、今も忘れられないものはたくさんあります。過去の研修生の懐かしい写真とともに振り返りたいと思います。

年度	PHDの歩み	研修生
81	(昭56) ・岩村昇博士第1回ロータリー平和賞受賞を機にPHD運動を提唱、任意団体PHD協会を設立 ・募金受付開始 ・国際ボランティア兵庫県民シンポジウム開催 ・アジアスタディーツアー開始	
82	(昭57) ・専従職員採用 ・会報PHDレター発刊 ・第1期研修生来日 ・財団法人PHD財団設立、今井鎮雄氏理事長に就任 ・たんば農文塾合宿開始 ・神戸新聞平和賞、兵庫県社会賞受賞	1期 アマテイア(ネ) バニサレス(コ) リト(フ) バラト(ネ)
83	(昭58) ・会員制度発足 ・(財)PHD財団とPHD協会を一本化し(財)PHD協会に	2期 1班 サヒ(ネ) サンバネ(ネ)
84	(昭59) ・試験研究法人の認定を受く(以降2年毎に更新中) ・評議員会発足	2期 2班 ワイリ(フ) ファイミン(ラ)・短 アディカリ(ネ)
85	(昭60) ・新ロゴマーク採用 ・農文塾合宿を草の根生活塾に改め開始 ・短期中堅指導者招聘開始 ・東日本研修旅行本格的に開始 ・研修生指導者海外短期派遣開始	3期 ガウチヤン(ネ) ショイバナ(ネ) ブリチャー(タ)
86	(昭61) ・西日本研修旅行開始 ・神戸NGO懇談会に参加 ・「K.O.B.E発アシア」刊行 ・オールナイト・トークキング・セッション開催 ・フィリピン比較研修開始	4期 ウイラット(タ) ベリア(タ) ジャヤンタ(ス) ユリ(イ)
87	(昭62) ・事務所を現住所に移転 ・関西国際協力協議会に参加 ・韓国比較研修開始	5期 チャイルス(ス)・短 ニラカントイ(ス) アフリ(イ) コマ(タ)



第1期生。左からバニサレスさん、リトさん、アマテイアさん、バラトさん。篠山のたんば農文塾にて(82年)

農文塾で岩村先生や1期生と交流した日のことが今も一番印象に残っています。(赤松恵美子/ボランティア)



第3期生。左からブリチャーさん、ショーバナさん。満開の桜の木の下で。(85年)



第4期生。左からウイラットさん、ユリさん、ジャヤンタさん、後方にベリアさん、草地賢一さん。(86年)

短期間に日本語をマスターしたり、帰国後漢字混じりのレターが送られて来た時には驚きました。(川那辺裕子/ボランティア)

88	(昭和63) ・国際交流基金、地域交流振興賞受賞 ・「テーブルカレンの人々」刊行 ・農業交流団をタイへ派遣	6期 1班 アファンル(イ) アジャンタ(ス) ワラヤ(タ)	2班 ベディ(イ) ファイジン(イ)
89	(平1) ・特定公益法人の認定を受く ・インドネシア舞踊「インドジャティ」公演 ・ムシキーがんばる布のグループ発足	7期 ドミ(フ) サンコム(タ)	バムルン(タ)・短 トニー(ハ)
90	(平2) ・グループソディ発足、北タイ、カレンの布支援開始 ・韓国短期研修生受入開始 ・第2回「インドジャティ」公演	8期 1班 ヘルベ(バ) レル(バ) ネストール(ル)	8期 2班 トンスク(タ)・短 ベリポー(タ)・短 ヘス(フ)・短 サムスアリ(イ)
91	(平3) ・神戸国際交流賞受賞 ・10周年記念事業マチと南太平洋・アジアとムラをつなぐメドレーセッション開催 ・毎日国際交流賞受賞	9期 サウエ(タ) ランタナ(タ)	ジャネット(ラ) ラニー(ハ)
92	(平4) ・第3回「インドジャティ」公演	10期 ウイン(イ) シャヤンタ(ス)	ユリ(イ)・短 セニフィタ(イ) ハスマヤ(イ)
93	(平5) ・「アジアの草の根国際交流 - PHD協会の実践」刊行 ・ドイツ・タイ国際協力研修旅行 ・職員藤野海外研修 ・岩村理事「マグサイサイ賞」受賞	11期 トゥンティン(イ) ソム(カ)	ウチナ(カ) ソム(カ) ム(カ)
94	(平6) ・国連社会開発サミット参加	12期 ラッド(イ) トゥントラ(イ)	ブノ(バ)・短 ルーク(イ) フリチャー(タ)・短



第6期生ワラヤさん。兵庫県波賀町の農家田中五郎さんについて研修。(88年)



第8期1班。左からネストールさん、ヘルベさん、レルさん。(90年)

エニ(セニフィタ)さんがいた頃、三木鉄道の一車両を借り切って、その中をインドネシアの写真やパティックで飾り体験列車ツアーをしたことが懐かしいです。岩村先生も来られました。(芝美代子/研修協力者)



淡路島で日韓農民交流。韓国からの研修生と中央に山口勝弘さん(研修指導者)と飛田雄一さん(神戸学生青年センター館長)。(94年)



当会事務所の様子。まだ完全にコンピューター化されていない頃です。当時の職員小松さん、渡邊さん、吉岡さんもいます。(92年)

すべての研修生がお父さんと呼んでくれ、家族同様に生活できたことがとてもうれしい。彼らから、逆に農業の大切さ、面白さ、家族の絆の強さを学んだ。(中野宗嗣/研修指導者)



第14期生。左からウビさん、ピドゥルさん、ミノさん。交流会で的一幕。(96年)

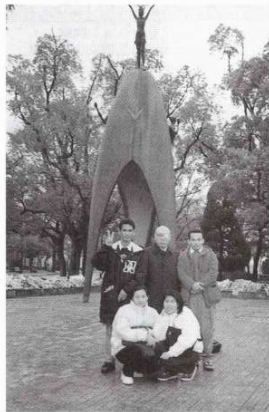


左から岩佐康子さん(研修指導者)、第16期生ゲオリさん、サビトリさん。洋裁の研修中。(98年)

ゲオリさんたちは、私にとって初めての学生。毎回ドキドキしながら授業をしていましたが、研修生たちの熱意に多に助けられました。(東裕子/神戸YMCA日本語教師)

国内研修生

日本が欧米化してきて、昔の日本の良いところを忘れそうになった今、大切なことをたくさん教えてもらいました。(葛原時寛・香織/ホストファミリー)



第17期生。前列左からベリポーさん、ポーディーさん。後方左からエディさん、久保満さん、ダスウィルさん。広島での平和学習で。(99年)



左から納堂さん、第18期生アフダールさん、ノバドンさん、岩村昇先生、リンダさん、ブンシーさん、山西さん。研修が終了した報告に。(2000年)

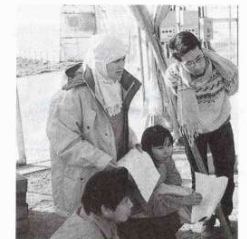
01	(平13) ・神戸新聞社会賞受賞 ・20周年記念事業	19期 アルウィン(イ) シコン(ハ) ナロンド(タ) ケウン(タ)	笹間 郁子
02	(平14) ・PHDホームページ完成 ・タイ、カレンの女性グループ相互訪問開始 ・岡山に支援グループ発足	20期 スウェイン(ヒ) スラチ(タ) ミミ(ヒ)	鴨川 佳枝
03	(平15) ・PHD LETTERひらがな版開始	21期 ケウン(イ) クワン(イ) エリナ(イ) アンティ(ヒ)	坂西 卓郎
04	(平16) ・JICA兵庫教師海外研修受託開始 ・関西テレビ青少年育成事業団海外研修受託開始	22期 ソウウィン(ヒ) ソウウィン(ヒ) アフリタ(イ) ハイディ(ヒ)	サエ(フ)、短 シエ(カ)、短 佐藤 栄利子
05	(平17) ・岩村昇理事(78才)逝去、感謝と送別の会	23期 マラル(イ) ロナルド(ヒ) テー(ヒ)	坂本 由美
06	(平18) ・PHD25周年 ・会報100号記念 ・国内スタディツアー再開	24期 フトラ(イ) ポディーヤ(タ) スー(ヒ)	シユキヤ(タ)、短



第19期生。左からシコンさん、ナロンドさん、アルウィンさん、ケウンさん。料理をみんなで作りしました。(01年)



第20期生。左からスラチさん、スウェインさん、ミミさん。林業体験学習で。(02年)



第21期生。左からアンティさん、エルリナさん、ケンターウエさん、坂西卓郎さん(元国内研修生)兵庫県内研修で。(03年)



第23期生。左からマラルさん、ロナルドさん、テーさん、藤野総主事代行。学校訪問の一場面。(05年)



第22期生。左からアフリタさん、ソウウィンさん、今井理事長、後方ハイディさん。理事会で終了証書を授与されています。(04年)

研修生出身国

イ:	インドネシア
韓:	韓国
カ:	カンボジア
ス:	スリランカ
ソ:	ソロモン諸島
タ:	タイ
ネ:	ネパール
バ:	バブア・ニューギニア
ビ:	ビルマ(ミャンマー)
フ:	フィリピン
短:	短期研修生

毎年思うことですが、研修生は一度行った場所を良く覚えているので感心します。(吉田吉彦・八重子/研修指導者)

95	(平7) ・国内研修生制度開始 ・阪神大震災地元NGO救援連絡会議へ支援 ・バブア・ニューギニアのレックスパンド来日、APEC大阪会議「大阪大航海」へ参加 ・第4回環境水俣賞受賞	13期 カエウ(ヒ) ビシヨ(ヒ)	宮田 早夏 谷 朱子
96	(平8) ・外務大臣賞受賞 ・国際協力ワークショップ(4回シリーズ)開始 ・バブア・ニューギニアからソル・アンソニー・スパム氏来日	14期 ウビ(ヒ) ピドゥル(ヒ)	カイン(ヒ) ミ(ヒ)
97	(平9) ・アユース人材助成 ・今井理事長兵庫県功労者表彰 ・シュエ・ミン・ター氏来日	15期 サビトリ(ヒ) アンボン(タ) ワニ(ハ) ハリエオ(ハ)	奥西 真幸
98	(平10) ・イギリスよりローレンス・テイラー氏招聘、5 days workshopを開催 ・ビジャイ・セス氏来日	16期 ゲオリ(ハ) サビトリ(ヒ) ブラチャク(タ) サワン(タ)	鬼木 たまみ
99	(平11) ・インドからポールシロモニ氏招聘、One day workshopを開催	17期 ベリポー(タ) ポーディー(タ) ダスウィル(イ) エディ(ヒ)	納堂 邦弘
2000	(平12) ・外務省NGO相談員受託開始 ・インドからジョン・ジョージ氏招聘、One day workshopを開催 ・アユース評価支援	18期 ブンシー(タ) リンダ(ハ) ノバドン(タ) アフダール(イ)	

日本語研修も終わり、それぞれの研修が兵庫県下で始まりました。7月末までの様子を報告します。

研修生レポート

スーティンさん (ビルマ/28才)

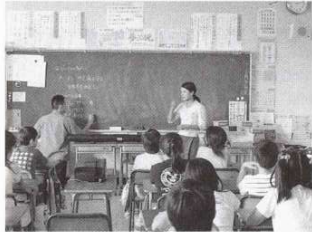
6月6日～13日
円谷利行・豊子 (篠山市) / 野菜

村では仕事が休みの日に実家の農業を手伝っているスーさん。日本では、最初の研修で有機農業について学びました。ミミズを怖がりながら(?)の作業でしたが、初めての事も少し教わっただけで要領良くこなせていたということで、まずは一安心です。

6月12日
弥生小学校 (三田市) / 教育

円谷さんが校長を務める弥生小学校に日帰り見学。初めて日本の学校を訪問しました。規模、設備、授業と何をしても村の学校とは様子が違います。交流会では児童からの質問にも丁寧に答え、6年生の皆と一緒に初めての給食も食べました。

6月15日
段上小学 (西宮市) / 教育



定期検診の1つ、眼科検診を見学。病気の予防の観点から他にもいろいろな検診があることを学びました。この日は

習字の授業も見学させてもらいました。
6月22日～23日
ポートピア保育園 (神戸市中央区) / 保育

2日間の日帰り見学で、先生から日本の保育園や幼稚園について説明を受けました。そして、各クラスを見学させてもらったり、一緒に給食を食べたりしながら、保育園の生活を体験しました。ビルマではお母さんが赤ちゃんのお世話をするのが当たり前。日本の0才児保育には少し驚いた様子でした。

6月29日
明石城西高等学校 (明石市) / 教育

高校で取り組まれている新しい形の授業を2つ見学。調べ授業では生徒からの質問にも答え、臨時講師とまではいきませんが、これからの研修に備えて良い練習になりました。

7月3日～5日、10日～14日
はらっぱ保育所 (西宮市) / 保育

保育所での初めての本格的な研修です。子供が大好きなスーさん、直ぐに子どもたちとも仲良くなれ、一日の仕事の流れも自然と覚える事が出来ました。民間の小規模な保育所での勉強でした。

7月19日～24日
小前芳彦・達子 (篠山市)

／米・野菜・ぼかし肥
あいにくの天気が続きましたが、ぼかし肥作りにも挑戦し、有機農業において大切な肥料について学びました。

7月24日～28日
ささやま保育園 (篠山市) / 保育

園児の数が多い保育園での研修。はらっぱさんと園内の様子も違います。短期間でしたが、各先生についていろいろなクラスに入り、年齢に応じた対応の違いを学びました。

ポーディーヤさん (タイ/38才)

吉田吉彦・八重子 (丹波市)
／野菜・養豚・養鶏

村では家畜の世話は女性の仕事。まずは、所属する女性グループの希望である家畜の飼育について学ぶための研修でした。タイでもよく飼育されている豚の世話をしながら、村との違いを学びました。

7月10日、12日、15日、22日
くらふと・ぎやらりー多田 (芦屋市) / 洋裁 (小物)

いよいよ、第一希望の洋裁の研修。カレンの布を使って作ることを前提に、あらかじめ雑誌から選んでいた写真を元に靴、巾着、ペンケース作りに挑戦しました。初めて使った電動ミシンですが、使い方にはすぐに慣れて、細かい作業もお手の物。まだ日本語で先生の指導を理解するのに少し苦勞する場面もありましたが、ボランティアさんの助けもあり、4日間の研修を終えることが出来ました。



ミシンで小物を作成中 (くらふと・ぎやらりー多田)

7月24日～26日
高橋武子 (三木市) / 洋裁 (スカート)

一般の布を使って自分たちが着る洋服を作る技術も学びたいということで、スカート作りに挑戦。3日間でギャザースカート3枚仕上げ、早速お気に入りの一枚を着用しています。事務所では習ったことをおさらいしながら、新しいデザインのスカートも仕上げました。一年の研修を終える頃には持ち帰りきれないほどの作品が出来上がってそう。いろいろなカタログを見たり、お店を巡ったりしながら、「これ作りたいです。」と意欲を見せています。

スリヤ・プットラさん (インドネシア/22才)

6月5日～17日
藤井誠次 (神戸市西区) / 野菜・養鶏



機械化が進んでいる日本の農業の中で、耕運機などの農機を初めて操作しました。

しかし、農機の運転を覚えることが研修の目的ではありません。うねの作り方やトマトの苗の育て方、そして、ビニールマルチの違いまで、日頃の鋭い観察力を十分に生かし、細かな違いも見逃さずに見つけてきました。

好奇心旺盛なプットラさん、お昼休みには藤井さんのお子さんと一緒にお菓子作りにも挑戦。とても美味しいお菓子ができました。将来はケーキ屋さんが開けるかも(?)。

6月22日～7月3日
渋谷富喜男 (神戸市西区) / 米・野菜

良く笑うプットラさん。時々言っていることが本当か冗談か分からないと渋谷さん。米糠とおからを使ったぼかし肥の作り方を学びました。1ヶ月前に作った肥料と新しいものを混ぜ、更に1ヶ月寝かして畑に。肥料は全然匂いませません。「友達がおからを購入してくるので、これを分けてもらって出来るかも。」と帰国後の村での取り組みに意欲を見せます。

7月14日～25日
真柴三幸・朝子 (佐用町)
／酪農・土着菌・ぼかし肥

研修初日の深夜、いきなり子牛の出産に立ち会うことに。なかなか生まれてこない子牛を皆で引っ張り出しました。インドネシアでは生まれてくるのを待つのみらしく、1つ大きな違いを発見できました。研修期間中、あいにくの天気が続きましたが、乳牛と肉牛の飼育の方法の違いや土着菌を利用した餌や肥料の作り方を学びました。また、肉牛を放牧している様子を見学する機会もあり、いろいろな日本の牛の飼育を知りました。

<敬称略>

帰国研修生短信 (ビルマ編)

タダインシェ村

ムームーさん (93年)
マンダレーYMCAが手伝える幼稚園で働いていますが、近々、お連れ合いさんと引越す予定。「そこでまた幼稚園を開いてもいいし。ヤギを飼って畑でもするかな。」と笑っていました。

トゥンティンさん (93年)
米、豆、ゴマ、綿、マンゴーなどを作っています。グループの活動にもしっかり取り組み、奨学金制度では96年から7人を支援しました。お米の銀行や図書館も続けています。村の若者たちは今年は研修旅行に連れて行きたいと話してくれました。



どこかで見たポーズ。わからない方は新着輸入ガキをチェックしてみてください。

タウンティンターさん (05年)
日本での研修を活かし、タマリンドの葉+ワラ+牛糞+米糠+水で肥料を作り、畑や果樹園に使っています。両親所有の田んぼと畑は、ターさんの自由に使わせてくれるので、これからいろいろ試してみたいとのことでした。「トゥンティンさんが日本での研修を実践して村の人たちに伝えてきてくれたので、話だけでも伝わりやすい。」と2人の協働体制が、これから楽しみです。「2月には結婚したいです。まだわからないけど。」照れくさそうに笑うターさんでした。

ティンアンウィンさん (92年)
「帰国してから14年になる。村での活動から少し遠ざかっているが、この年月を振り返り、PHDとタダインシェ・イエボの評価をしていきたい。お金や物ではなく、人と人をつなげるPHDの活動をこれからも広めていくために。」マンダレーのNGOからヤンゴンに移り、エイズを中心とした医療調査、公衆衛生分野のNGOで働いています。

イエボ村

カインソーさん (96年)・スウェーインさん (02年)
子どもは1歳9ヶ月になりました。「子育ては大変だけど楽しい。村の人たちがスウェーインさんの作る稲の苗が欲しいとやってきます。」とカインソーさんは話してくれました。スウェーインさんが帰国後に試行錯誤で始めたアイガモ農法は上手いかなったけど、米、ごま、スモモなどの栽培に熱が入ります。



ゾーウィンさん (04年)
新しい農業のやり方を、まず、自分から兄、友人に伝えています。村の茶店は、男衆の寄り合い場所。そこでいろいろな意見交換をするらしい。父と2人暮らしなので「早くお嫁さんをもつて…」とけしかけられていました。候補者は4名もいると聞いてびっくりしました。



東西南北 問題解決 取組日記

会報が100号に

81年にPHDの活動が始まり、82年に第1期研修生が来日、会報「PHD LETTER」も第一号が発行されました。以降年4回の季刊として、活動の報告を続け、丁度25周年となる今年、PHD LETTERも100号となりました。当初は原稿を印刷屋さんへ版下作成を頼んでいましたが、15号からプロのデザイナーに依頼するようになりました。01年からはコンピューターとそのソフトを使って、デザインも事務所内で行うようになりました。本号では過去のLETTERの表紙をいくつか載せてみます。その変遷をご覧いただければと思います。

2年ぶりの西ネグロスへ

5月末、2年ぶりにフィリピン、西ネグロス州にでかけました。89年、90年、91年に招いた研修生たちのその後をフォローアップすることに加え、新たな試みとして他のNGOとの共同プログラムの可能性を探ることが目的です。

東京に事務所のある日本ネグロス・キャンペーン（以下JCNC）が04年ネグロスから神父さんを招き、神戸であったその方の講演会をお手伝いしたことがきっかけとなりました。JCNCはオルタナティブ・ジャパンという会社をパートナーとしてネグロスのバナナ、砂糖などの輸入を軸に現地のカウンターパートを通じて、ネグロス農民の支援を行っています。現地に日本人スタッフを配置し、住民の自立を支援しています。より効果的な地域支援の策として農民トレーニングを考えていたJCNC側と、より詳しい現地情報に基づく研修実施と、帰国後の丁寧なフォローアップを検討していたPHD側の考えが合致し、まずは07年度にJCNCの推薦による人材の研修を当会が引き受けよう

というものです。今回は候補地域を3カ所ほどまわり、住民にPHDの考え方、研修内容を説明していきました。大変興味を持ってもらい、話は前進しました。10月に再度訪ね、人選を行う予定です。

ネグロス訪問最後の日は、帰国研修生ドミーさん、ネストールさんを訪ね最近の様子を聞きました。両君とも元気で、熱心に農業と地域の活動に取り組んでいます。ドミーさんは農地改革をうけてきた農民組合のリーダーとして、ネストールさんはカトリックの教区の活動として神父さんと共に働いています。ともにとても多忙な毎日をおくっています。今回のJCNCとの共同が、この2人の活動にもプラスになるよう顔つなぎも行いました。

8人でビルマへ

今年は、例年より少し早く7月中旬にビルマ(ミャンマー)を訪問。15年前に来日した研修生のその後を見たいと参加された85歳の山端さん、これまで多くの研修生のお世話をいただいた丸山さんご夫妻をはじめ総勢8人で出かけました。

マンダレーから車で30分ほどのタウンシエ、そこからさらに30分のイエボの村に帰り活動する研修生全員に会うことができました。07年はタウンシエからティダさんという女性を招くことになりましたが、それ以降に関してはタウンシエ、イエボとも4、5人ずつの配置となったため、ビルマ国内第三の対象地の相談も行いました。村人だけでなく、今は村を離れヤンゴンで保健系のNGOで働くティンアンウィンさんと研修生たちのビルマ国内での研修を支援するURMというプログラムの担当者、デビットさんとも協議を行いました。

軽井沢でワークショップのお手伝い

7月下旬、3泊4日軽井沢で行われた幼稚園、保育園の教師の方々を対象とした研修会のお手伝いをしました。大阪に本部をおく総合幼児教育研究会とい

う全国組織が毎年夏に行っている研修会の一部を引きうけたものです。100人の先生が3つのテーマに分かれ、各班10人ずつで、1日かけてグループワークを行い、翌日、さらに60人の園長先生を加えた全体会で発表をしました。当会に幼児教育の専門性があるわけではありませんが、アジア、南太平洋の村の人々による地域づくりのすすめ方に共通する手法として参加型のアプローチをとり入れ、好評をいただきました。それぞれが内にもつ才能をうまくひきだすことが「開発」であるという岩村先生の話の引用も、すすめました。こういった形でPHDの活用のかたもありません。興味をおもちの方、ご相談下さい。



新しいTシャツを着る(左から)ナンダナさん、ジャヤンタさん。右はチャールスさん。

7年ぶりにスリランカへ

8月上旬はここ3年連続受託しているJICA兵庫センターの教師海外研修でスリランカにでかけました。99年以来久しぶりの訪問です。JICAが行うプロジェクトの見学に加え、当会研修生の活動する地域に8人の先生を案内しました。

ニールカンティさん(87年度)の学校を訪問しての交流をはじめ、チャールスさん(87年度短期)、ジャヤンタさん(86年度)、ナンダナさん(91年度)とはボヤワラーナ村で会うことができました。農業で食べていくことが難しい状況について話をききました。アジャンタさん(88年度)はいろいろな苦労がありました。今は奥さんの実家近くで土木機械の作業請負で収入を得て、若い人材を育てています。みんな元気でお世話になった日本の皆さんよろしくとのことでした。

総主事代行 藤野達也

同じ買うなら、使うなら! No.5 陽子の手作りヨーグルト

7月のビルマツアーに参加してくださった吉田陽子さん。実は、ヨーグルト作りを続けて数十年というキャリアをお持ちの方でした。今回は、笑顔が素敵な陽子さん自慢のヨーグルトを紹介します。

お嫁に行く前は、普通の公務員だった。そして酪農に従事する家に嫁いだ。ある時、偶然ラジオで作り方を聞き、ヨーグルトを作ってみた。子どもは、「おいしい！」と絶賛した。その事が母の人生を大きく変え、40年近くわたる「続き」をもたらした。

母の名は吉田陽子さん。家族の好評をきっかけに自家製ヨーグルトを作り続け、今では全国にファンを持つ酪農家だ。生産許可の取得、消費者の開拓、

そして味と質の向上などさまざまな困難を乗り越えたことから起業家としても注目を浴びている。

「乳製品」(ほとんどは脱脂粉乳のことらしい)と表示された市販品とは違い、原材料は生乳100%。若干加糖されてはいるものの、甘味は抑えてある。口にするたびに、牛乳の濃厚な味や豊かな風味が、甘さにごまかされることなく口いっぱい広がっていく。

新鮮なうえ無添加なので体にもよい。「ヨーグルトに勝る健康食品はない」というのが吉田さんの信条。実際、「血圧が下がった」「胃腸の調子が回復し



吉田陽子さんと手前に自慢の手作りヨーグルト。

た」などの声が多く寄せられる。

「おいしい！」の声は37年を経て全国に広がっている。テレビ・ラジオ番組で紹介されるたびに注文が殺到し、遠方からわざわざ車で買いに来る人もいます。それだけの支持を受けるのは、ヨーグルトに優しさがこめられているからだ。母が子どもを包み込むような。

菅原宗晋



小さなお店の周りには、ヨーロッパ風のガーデンも。

お問い合わせ先

〒675-1341 兵庫県小野市西脇町161
有限会社 陽子の手作りヨーグルト
TEL: 0794-62-5093
FAX: 0794-63-8093
●全国への発送も承っています

私の訪問記 VOL.6 野草を食べる会

5月27、28日に兵庫県養父市で行われた『野草を食べる会』に、初めて参加することに。

あいにくの雨の中だったが、自然の家周辺でカッパを着ながらの野草採取から始まった。イタドリ、ヨモギ、カラシナ、タラ、ミツバ、などなどちょっと歩くだけでもたくさんの野草に出会える！雨も気にならないくらい楽しんだ。葉っぱの真中に花が咲いたような野草『ハナイカダ』。葉っぱのいかに花が乗ってる！！その通り！の名前もかわいくてこれにはちょっと感動。夕食にはみんなで採取した採りたて野草でんぶら！！地元の方が作って下さった糟和えやら、大根やらつきよやら・・・どれもこれもとっても美味！！なんだかこの2日間で体の中がきれいになった気分☆

PHDからは研修生やスタッフさん

も参加。初対面なのになんとも心地の良い、密度の濃い2日間となった。いい出会いに感謝したい。

2日目。昨日の雨が嘘のような快晴。朝は鳥の声で目覚めた。またまたおいしいごはんを頂いて、お散歩がてら近くの名草神社へ。雨上がりの深緑はとっても気持ちが良い。風に揺れる葉っぱの音が、川が近くにあるのかと思うくらいさらさら心地よく耳に残る。

いつもの生活をちょっと離れて、なかなか普段体験できない自然の中で過ごした2日間。全く野草の知識がなかった私が、道端の草たちを見ては「ん？これ食べられる！？」なんて思うようになったのはまさしくこの会のおかげだと感じる。

すてきな会をありがとうございました！準備して下さった方々に感謝でいっぱい。またぜひ参加したいと思う。(大森裕子/神戸市)



雨の中カッパを着て野草取り。頑張りました。



採った野草を選別作業。食べる前の一手間です。



■ 加東市連合婦人会の皆さんと交流 ■



7月8日、兵庫県加東市で交流会を行いました。研修生の自己紹介や村の様子をスライドで見たり、質問を受けたりしました。婦人会の皆さんからは、写真に写っているお土産もいただきました。



■ 今年も林業体験合宿 ■

7月29、30日の1泊2日で、恒例の林業体験合宿を兵庫県篠山市で行いました。夜には大阪自然環境保全協会の近藤徹さんを講師に迎え、里山活動について学びました。研修生の村と比較しながら森林の役割を考え、背丈ほどもある下草を刈りました。

■ インターン始まりました ■

今年も人材作りの一環として、インターン受け入れが7月から始まりました。安那真理子さん/佛光大学と藤原西見さん/龍谷大学の2名が参加しています。ご寄附や会費の領収書に添えるお礼の言葉を書いたり、研修指導者宅へ伺って農業体験をしたり多くのことを学んでいます。



■ ポーディーヤさん 布を織る ■

7月16日、コープこうべ主催のイベント「平和のつどい」に参加しました。バザーコーナーでは、ポーディーヤさんによる手織り布の実演も行われ、多くの方からの関心を集めました。また、平和な社会を目指すための活動報告も行いました。

クリスマス
を
タイで!!

◆◆◆北部タイ 年末年始スタディツアーのお知らせ◆◆◆

スケジュール (予定)

12/23	関西国際空港-バンコク-チェンマイ
24	チェンマイ-ボケオ
25	ムシキー (ポーディーヤさんの村)
26	ムシキー
27	ムシキー-チェンマイへ
28	チェンマイ
29	メーサリアンへ
30	シードンチャイ/ペー村
31	シードンチャイ/ペー村
1/1	チェンマイ
1/2	チェンマイ-バンコク-関西国際空港

- 参加費：約19万円
- 定員：13名
- 申し込み締め切り：12月1日 (金)



●マクケーンリハビリテーションセンター：ハンセン病患者、障害者のリハビリテーションセンター。日本人ワーカーの浅井重郎さんのお話を聞きます。車椅子で作業できる畑です。(写真上)

●伝統の布織りを体験させてもらいました。1時間にわたって頑張った05年度参加者。(写真右)

- 訪問先
 - ・タイ・カレン・バプティスト会議
 - ・バヤップ大学農村開発調査研究所
 - ・マクケーン・リハビリテーションセンター
 - ・Integrated Tribal Development Project (タイ北部山岳民族の生活向上のためのプログラム)
 - ・帰国した研修生の村々



短期研修生タイからまもなく来日



シューキャ・ムアンチャンさん (21才)

現在、チェンライにある大学で勉強中。日本での研修テーマは、NGOの組織運営や財務、コンピューターシステムなど。10月末から2ヶ月半の滞在予定。東日本旅行にも同行予定です。第3期研修生ブリチャーさんの長男で日本語も日常会話程度話すことができます。

PHD NEWS

◆会費・ご寄附寄託状況

2006年 5月	34件	1,053,506円
6月	390件	2,831,616円
7月	232件	1,731,906円
	656件	5,617,028円

以上の通り、大勢の方々よりご浄財を頂きました。岩村理事逝去後の皆様への会費のお願いに、PHDの活動にご理解を頂戴し研修生を支えるためのご協力に感謝申し上げます。研修事業の更なる充実のために使わせていただきます。今後とも皆様からの引き続きのご支援をお願い申し上げます。

◆第20期関西NGO大学 9月開講

世界には多くの課題、問題があります。世界と向き合い、行動するためのひとつの道を見つけてみませんか。9月23日、24日から来年2月までの各月1回、1泊2日の6回シリーズ。お問い合わせ、申し込みは(特活)関西NGO協議会：電話06-6377-5144まで。

◆第24回国際フォーラム開催

ドーナツを食べながらシニアボランティアの参加について考えます。
日時：10月14日 (土)
基調講演：豊後レイコさん (NPO法人エルダーホステル協会 名誉会長)
14:00-15:00
ドーナツ会議：15:15-17:00
場所：大阪YMCA 3階302号室
参加費：300円 定員：50名

お申し込みは(特活)関西国際交流団体協議会内 国際フォーラム実行委員会事務局：電話06-4395-1124

◆東日本・西日本研修旅行のご案内

活動報告やお礼、研修生の社会見学などを目的とした研修旅行を行います。各地で交流会も予定しております。お近くの方にはご案内を致しますので、ぜひ研修生に会いに来てください。

＜予定＞

・東日本 (11月中旬～下旬)

愛知-静岡-神奈川-東京-

山梨-長野-岐阜

・西日本 (1月中旬～下旬)

宮崎-鹿児島-熊本-大分-

福岡-山口-広島-愛媛-岡山

◆第16回林業体験合宿

今年も秋頃に、大山振興会との共催で「枝打ち・間伐」を行います。お問い合わせ・申し込みはPHDまで。

新作 PHDオリジナル
絵ハガキ発売中!!

◇アジア・南太平洋の子どもたちを撮影した写真。
◇8枚1組で500円。

ご注文はPHD協会まで。



○月×日のPHD協会

職員 佐々木 初スリランカ。関西のねっとり暑さになじんだ体には、気温が高くても乾いたこの暑さは物足らず、ヤシ酒アラクをあおる夏の夜。

職員 因幡 姉妹のお客人。応対に出て「お母様ですか」と一言。「前にも間違われたんですよ」と姉上の気づかいに、一気に冷房効果の夏の昼。

職員 高垣 暑くても節約のため部屋のクーラーは入れず、水シャワー、上半身裸でしのぐ。でも鍋に残した晩のオカズが翌日腐ってもったいない。

職員 佐藤 暑くて早く目が覚める。もう眠れないので、起きてスカートを生縫い上げ、それで出勤。二人の研修生からの刺激もあっての夏の朝。

職員 藤野 この夏はビルマ、軽井沢、スリランカ、スマトラへ。どこが一番暑かったかと言えば、それはもう間違いなく冷房いれない神戸の事務所。

＜以上、お酒の好きな順＞

◆PHDの活動は会費が支えます◆

PHD会員制度のご案内

終身維持会員：	1口10万円 (任意の口数)
PHD会員：	1口5千円 (任意の口数)
友の会会員：	1口千円以上任意の額

当会は特定公益増進法人です。
ご寄附に対する免税の特典

当法人は特定公益増進法人としての認定を得ていますので、ご寄附に対する下記の特典があります。

寄附者が個人の場合
寄附金合計額 (所得金額の25%未満) マイナス1万円が寄附金控除額 (所得総額から控除できる額) となります。
(例) 1000万円の所得の人が250万円を寄附されると240万円の寄附金控除。

寄附者が法人の場合
寄附金合計額が一般寄附金納入限度額の2倍未満までが損金扱いとなります。
(例) 資本金1000万、その年の所得が3億円、1年決算の会社の寄附金の損金額は1000万円未満まで (一般では500万円)。

郵便振替口座
01110-6-29688
財団法人ピー・エチ・ディー協会

〇〇編集後記〇〇

会報100号。今回は、研修生とPHDの歴史を記事に載せる作業がたくさん。どの写真を使おうか迷いながら、膨大な過去の写真について見入ってしまう。帰った研修生が、笑顔で幸せに暮らしていることを願いながら。(M)

制作協力：荒木里奈子 菅原宗晋 中澤大 三郎 増本一朗 藤原西児 安那真理子

■ PHDレター100号までの歩み 岩村先生の手書きの表紙から始まりました。



創刊2号



1回目のデザイン変更



プロのデザインが入る

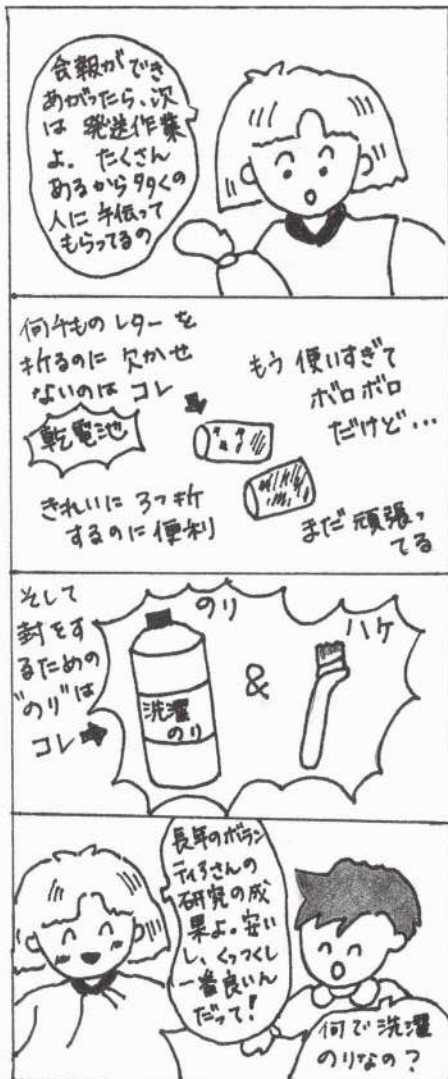


震災直後の臨時号



岩村先生追悼号

■ 膨大な発送作業には〇〇が必要



画：MJN

■ 発送を手伝って25年 得原輝美さん



〇月〇日の発送作業の様子

「以前勤めていた会社でDMの発送を専門にしていた関係で1号から関わっています。レター発送の作業だけで

参加しています。

あれから25年。年4回の発送で1年に10回としてPHDに行ったのは250回程。1年にもなりません。ただ行くたびにスタッフの変わらぬ笑顔とやさしさに帰りはいつも幸せな気分させていただいています。」と、話してくれたのは、まさにプロの速さで発送作業をこなしていく得原さん。多くの発送ボランティアの皆さんとともにPHDの強い味方です。これからもよろしくお願ひします！

■ 100号によせて 松尾(旧姓:小松)みちさん(元職員91年度~99年度)

初期からの編集会議がレターの初めの仕事。ボランティアの『お歴々』とうまくやれているのか、と冷や汗。その39号は編集子要領を得ず、出張前夜の藤野氏を夜中まで足止め。原稿が早かったのは草地さん。鉛筆でさらさら。その達筆と悪戦苦闘し赤を入れ—時代は今は昔の手書き原稿。当時は、版下作成を外注しており、出かけて行っては校正を繰り返す。「庭トリ」の原稿を「鶏」と替えてしまったこと、これは今も悔やまれる。

震災直後には特別号を事務所コンピュータで作成。以降渡邊、田中、芳田、そして今は因幡さんが事務所内で奮闘。発送週間は、緊張と楽しさの毎日。

顔ぶれも日替わりで話題もいろいろ。多くの個性。速さ、丁寧さ。この組み合わせうまくいくか、と心配したり、話に引き込まれ手が止まることも。季刊ゆえ、自らを季節労働者と名乗る方も。年4回でも、あっという間。親しくもなれる。延べ何人が発送に来られるか。終わった報告を出すときにその数に驚く。

レター、事業報告、チラシ、パンフレット、カレンダー。印刷屋さんとの色決めも楽しい。よく似た色の前年カレンダーを危うく送りかけたことも。それが一色からカラーになって久しい。

中身は、流されず冷静に、常に時代を見つめてほしい。